

移動・設置・収納は大人2名で



本製品はSGマーク対象製品です。
SGマーク制度は、卓球台の欠陥によって発生した人身事故に対する賠償制度です。

一体式卓球台取扱説明書

形式：内折一体式

品番		検印
製品番号		
製造年月		

警告 以下の警告を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。



移動注意

移動・設置・収納は必ず同じ体力を持つ大人2名でおこなひ、子供・生徒・高齢者だけで移動しないで下さい。

- ◆管理者から指導を受け、よく理解してから使用して下さい。
- ◆必ずアジャスターの調整を行い、がたつきや傾斜がない状態で使用して下さい。
- ◆使用する前は点検ポイントにそった点検を行い、異常が見られた場合は使用を中止し、速やかに管理者に報告して修理・交換など適切な処理をして下さい。
- ◆移動・設置・収納をする前は、周囲に子供や高齢者・部外者がいないことを確認して下さい。
- ◆段差や凹凸がある床面での移動、およびカーペットなど柔らかい床面ではキャスターの動きが制限され、卓球台の破損につながるばかりでなく、転倒の危険性があります。そのような場所での使用を避けると共に、段差をなくす処置を講じて下さい。
- ◆管理者は使用前に取り扱い説明書をよく読み、使用者に対し卓球台の使い方を指導して下さい。また子供・生徒・高齢者・部外者だけの使用が予測され、管理者の目の届かない状態になる場合、長期間卓球台を使用しない、破損などにより使用できないなどは、「使用禁止」等の表示をした上で、完全に保管ができるように処置を講じて下さい。



接触注意

連結部や天板の合わせ目などは、指や手などを挟み込む可能性があります。この部分には触れないで下さい。



加重禁止

卓球台に重いものを置かない。体重をかけたり、腰がける、のぼる、もくするなどしないで下さい。

各部の名称と点検のポイント

保管及び手入れのご注意

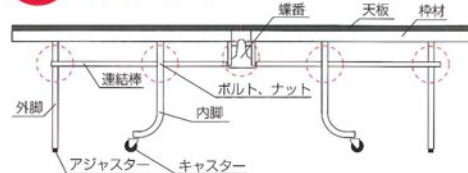
- ◆卓球の目的以外に使用しないで下さい。
- ◆本製品は屋内専用です。屋外で使用しないで下さい。
- ◆必ず収納状態で、直射日光の当たらない湿気の少ないところに保管して下さい。(天板のそりの原因になります。)
- ◆火気厳禁の場所に保管して下さい。
- ◆天板は水分を嫌います。天板をふく時はからぶきして下さい。

屋外禁止



警告

印の連結部分には触れないで下さい。
※指はさみに注意。



点検のポイント

天板・枠材	ひびわれ、かけ、ささくれ 塗装のはがれはないか？
外脚・内脚	変形、塗装はがれ、溶接のきれつ
連結棒	キャップの脱落・欠損はないか？
蝶番	動きはスムーズか？
キャスター	変形、磨耗、脱落はないか？
アジャスター	動きはスムーズか？
ボルト、ナット	変形、ゆるみ、脱落はないか？

◆定期的な点検結果を別紙点検表に記入して修理・交換の必要がある場合は「**使用厳禁**」の表示をし、速やかに適切な処理をして下さい。破損、ボルト・ナットのゆるみ、変形などが見られた場合などでの使用は大変危険です。

※機種により取付位置が異なる場合があります。

移動のしかた

- ◆キャスターにストッパーが付いている機種は必ず解除します。必ず収納の状態ですべて天板・枠材の外側部分を持ち、2名同時に同じ程度の力でゆっくりと移動させます。



警告

- ◆斜面での移動は卓球台の移動速度が上がったり転倒する場合があり危険です。そのような場所での移動はおやめください。
- ◆進行方向を確認しながら足元に注意して移動しましょう。
- ◆移動時の段差や敷居等の乗り越えにはキャスターを片方ずつ少し持ち上げるようにしてください。キャスター、脚部などを衝突させると破損の原因になるばかりか、卓球台が転倒する危険性があります。

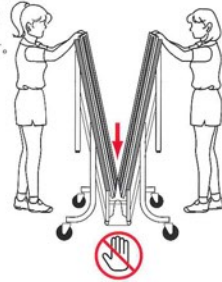
設置のしかた

- 1 キャスターにストッパーが付いている機種は必ず解除します。図のように手のひらを下ににして天板の上部に手をかけ、声を掛け合せて息を合せ、2名同時に同じ力でそのまま手前の方へゆっくり引いて下さい。
※同じ力で引かないと転倒する危険性があります。
- 2 45度程度に開いた時、手のひらを上に向け持ち変えます。脚が床面につくまで、ゆっくり降ろします。



警告

- ◆ネット・サポートの取付、取り外しの際は天板の上に乗りたり体重をかけたりにしないで下さい。
- ◆天印の(ネット飾)設置完了時に手をはさまないようご注意ください。
- ◆開閉時、蝶番等に指をはさまないよう絶対に触れないようにして下さい。



収納のしかた

- 1 ネット・サポートを取り外します。
- 2 キャスターにストッパーが付いている機種は必ず解除します。図のように声を掛け合せて息を合せ、2名同時に同じ力でゆっくり天板を持ち上げます。この時、手のひらは両端から肩幅、中央部を持ちます。45度程度に閉じた時、手のひらを天板の上に持ち替え、天板が垂直になる前にゆっくりと手を離します。※同じ力で引かないと転倒する危険性があります。



警告

- ◆収納時天板に手を挟まないよう十分に注意して下さい。
- ◆開閉時、蝶番等に指をはさまないよう絶対に触れないようにして下さい。

